



▲市民劇場として多くのファンを持つまでに成長した「夢フェスタ」。入場開始前から多くの来場者が列を作りました



▲完成度を高めるため、本番直前まで演技を確認する参加者



**●あらすじ**  
幕末の登米郡桜場村（現登米市中田町上沼）。江戸で修業した蘭方医の石川桜所は、村人から厚い信頼を得ていた。妻が急死したのを機に、蘭方をさらに究めるための旅を始める桜所。再び江戸に戻った桜所は頭角を現し、將軍家の奥医師となった。大政奉還後、瑞巖寺住職の世話で松島に開業。しかし、維新政府に歯向かった大罪人として投獄されてしまう。その頃、新政府では陸軍に軍医部を新設する動きがあり、一度はとらわれの身となった桜所は、軍医監として近代医学を全国に広める「牽引役」となった。

桜所（中央）が維新政府の役人とらわれる場面

市最大級の市民参加イベント「夢フェスタ水の里」17回目となる夢舞台が3月7、8の両日、登米祝祭劇場で開催されました。本年は、近代医学の祖の一人とたたえられ幕末から明治にかけて活躍した本市中田町（旧桜場村）出身の石川桜所の物語です。中田町が公演の題材地となるのは11年ぶり。病で亡くなる人だけでなく、最愛の人を失う家族も救いたいという石川桜所の生涯が描かれました

# 石川桜所物語

中田町偉人伝  
近代医学の羅針盤

## 夢フェスタ水の里



毎回100人を超えるボランティアが、キャストから裏方までの全てをこなす登米市民劇場「夢フェスタ水の里」。市内に残る歴史や文化、人物などを題材に取り上げ、舞台上で発信しています。17回目となる今公演には、2日間で約1600人の入場者が訪れ、通算入場者数が2万5千人を突破しました。

【問い合わせ】登米祝祭劇場  
☎0220(22)0111



「桜所」の雅号の由来にもなった「南殿（なでん）の桜」が描かれた大幕を背景に、夢フェスタ水の里テーマソング「風のように」を全スタッフと観客が大合唱。夢舞台は幕を閉じました



回を重ね、円熟した演技を見せる役者たち。一人一人がその役をきっちりと演じました



中田町上沼地内の国道346号沿いには、桜所の功績をたたえ、記念碑が建てられています